

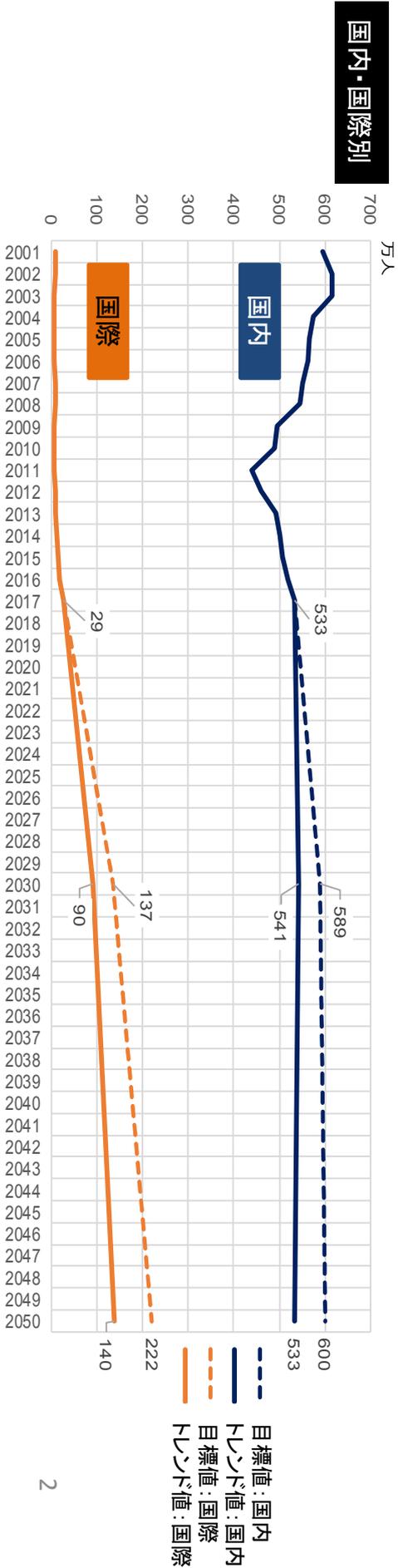
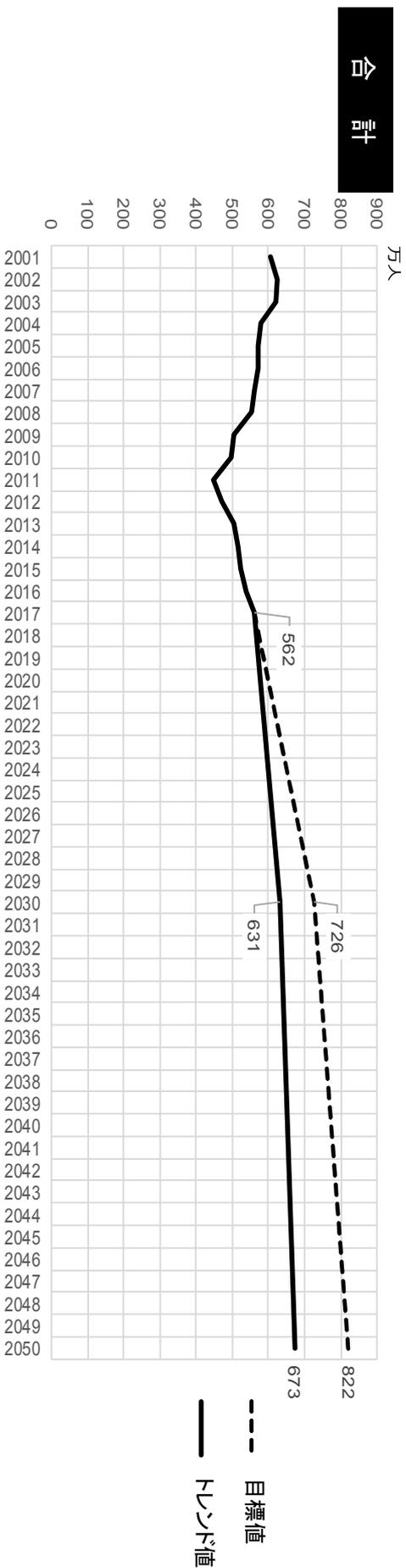
鹿児島県空港の将来像(案)に おける数値目標の考え方について

鹿児島県企画部交通政策課

トレンド値と目標値の比較

年	トレンド値		目標値		増減値	
	2030	2050(参考)	2030	2050(参考)	2030	2050(参考)
国内線	541	533	589	600	+48	+67
国際線	90	140	137	222	+47	+82
合計	631	673	726	822	+95	+149

単位: 万人



第2回検討委員会における議論内容

トレンド値をベースとした目標値算出に係る事務局案

- 国内線 ① LCCシェアが欧米並み(旅客数シェア30%)に達すると仮定し, LCCによる新規航空需要の開拓を想定
- ② 海外から, 主要空港を経由して鹿児島県を訪れる訪日外国人の増加を想定
- 国際線 ① 2030年までにベトナム, タイ, シンガポール, 2050年までにインドネシア, フィリピン路線の新規就航を想定
- ② 既存路線の2030年までの全路線毎日運航体制, 中国・香港路線は2050年までの毎日2便運航体制を想定

第2回検討委員会等における主な委員意見

- 国内線 ① 国内線LCCシェアは, 欧米並み(旅客数シェア30%)までは期待できないが, 一定の伸びは予想される
- ② 航空会社においても, 訪日外国人観光客に係る基幹空港から鹿児島空港への送客に取り組む必要がある
- ③ 本県の観光促進においては, 鹿児島空港を経由する離島への誘客を図る視点が必要
- 国際線 ① インバウンド需要について, 政府目標との整合性を図るべき
- ② 広域周遊観光客の取り込みを図るべき
- ③ より高い目標を持つべき
- ④ ベトナム, マレーシア, シンガポール, タイは有望なマーケット
- ⑤ 既存路線就航国・地域においては, 釜山, 台中, 北京(新空港開業を見据えて)をターゲットとすべき
- ⑥ 航続距離の長い航空機開発の可能性を踏まえると, マレーシア, オーストラリアは新規就航可能性がある

鹿児島空港の将来像案における目標値算出積み上げ内容

区分	積み上げ内容	2030年	2050年(参考)
国内	①観光施策の展開による観光需要の増加(2030年LCC旅客数シェア約15%)	+30万人	+41万人
	②訪日外国人観光客の主要空港乗り継ぎ需要の増加	+12万人	+20万人
	③奄美群島世界自然遺産登録による離島観光需要の増加	+6万人	+6万人
国際	①訪日外国人数に係る政府目標との整合性	+2万人	+4万人
	②広域観光施策の実施による鹿児島空港利用者数の増加	+8万人	+11万人
	③戦略的なエアポートセールスの展開による路線拡充(2030年新規就航: 釜山, 北京, 台中, ベトナム, タイ, シンガポール, マレーシア, オーストラリア)	+37万人	+67万人